

◆ 今月のテーマ：サイバー攻撃とは ◆

中小企業も他人事ではない！サイバー攻撃とは 熊本地震に便乗したサイバー詐欺に注意

このような時期に発生する可能性の高いサイバー攻撃があります。話題性の高い時事問題を利用して行われる「便乗詐欺」という手口です。これは、人の興味や関心をひく時事情報等に絡め、WEBサイトやFacebook、Twitter等のSNSサイトに関連情報を流すことで、不正動画や不正サイト等に誘導します。これらを閲覧するとパソコンが遠隔操作されるプログラムがインストールされてしまう、などの被害に遭うというものです。人の興味・関心を逆手に取った心理的な攻撃アプローチである「ソーシャルエンジニアリング」という手口を利用しています。

■ 心理を利用したネット情報に注意

すでに「動物園からライオンが逃げ出した」等のデマ情報がSNSで拡散していますが、これは愉快犯的な要素が強く、情報が盗まれたり金銭的に損失を被るような実被害になるケースは低いです。一方、便乗詐欺では攻撃者は意図的に不正なプログラムや、データを暗号化して金銭を搾取しようとする身代金ウィルス、ネットバンキングの不正送金を誘発させるウィルス等）を利用者のパソコンに埋め込もうとするた

め、データ喪失、金銭被害などの実害が発生してしまう可能性があります。

■ サイバー被害は経営リスク

このような被害に遭わないために必要なことは「教育・啓蒙活動を継続すること」です。知らないことは対策の打ちようがないため、このような事実を知らせる環境を会社組織として整えることが重要です。以下がその一例です。

- 経営トップ自らが「サイバー被害は経営リスク」であると、しっかりと認識すること
- サイバー被害の実態等の最新情報を、ニュースやインターネットで常に収集すること
- 社員が集まる場所（朝礼や会議等）で収集した情報を伝え、注意喚起を促すこと
- 情報発信責任者（もしくは担当者）を決めて業務の一部にすること

これらを継続的に行うことで、必然的に社員の理解が深まるようになります。

参考記事：船井総合研究所 那須 慎二

❖ 今月の豆知識 ❖ ～先端に紙が付いているのと付いていない手持ち花火の差～

花火には様々な種類がありますが、先端に紙が付いているのと付いていない手持ち花火の差ってなんなんでしょうか。

多くの方が花火の火薬に着火するための導火線のような役目と勘違いしていますが、実はちゃんと紙が付いている理由があるんです。それは、火薬が保護されているかどうかです。

先端に付いている紙の名称は「**花びら紙**」といいます。

「**花びら紙**」がついた手持ちの花火の正しい使い方は、**丁寧に「花びら紙」をちぎって捨ててから露出した筒先端の火薬にローソクで点火する。「花びら紙」から点火すると、途中で消えてしまい火薬に着火しない場合があります。今までなかなか着火しないなと悩んでいた方は「花びら紙」に直接着火してしまったことが原因だった可能性があるかもしれません。**

「**花びら紙**」をちぎるといのは初耳で驚いた方も多いのではないのでしょうか。

ちぎるのは本当に正しい方法で花火のパッケージにも書かれているそうですので、今度見る機会があったらぜひ確かめてみて下さい。

